

令和6年度 陵墓関係調査報告

陵墓調査室

調査の概要

当調査室では、「周知の遺跡」となっている陵墓において、保全・整備のための土木工事などを実施するにあたり、施工区域・箇所における遺構・遺物の有無を確認して、工法の決定に資する等のために事前調査・立会調査を実施している。また、「周知の遺跡」外であっても必要に応じて念のため立会を行うことがあるほか、当庁主体の工事ではない場合でも、陵墓地内、陵墓との境界線に沿った工事が行われることがあり、そのような場合も適宜立会を行うなどして対応している。令和6年度も各陵墓監区事務所や京都事務所などの関係機関と協力して調査を行った。以下、その概要を記すことにする。

〔事前調査〕 2件

1 仁徳天皇陵（大阪府堺市堺区大仙町）第3堤整備工事予定区域の事前調査

古市監区、11月～12月実施、担当：土屋隆史・田中詢弥・足達悠紀

当陵の第3濠北西部一帯の工事予定区域に7箇所のトレンチを設定し、調査を行った。

各トレンチで厚い造成土を確認した。具体的には、第3堤にある第5、6トレンチ、渡土堤にある第4トレンチでは江戸時代の陶磁器片や瓦片が混じる分厚い造成土が検出され、地山が水平方向あるいは西方向に落ちていくことを確認した。つまり、第3堤と渡土堤の大部分は築造当初の遺構ではなく、後世に築かれたものであると考えられる。また、第2堤にある第7トレンチでも、古墳時代の円筒埴輪片や江戸時代の陶磁器片が混じる約1.8mの造成土が検出された。築造当初の第2堤の遺構面は、現状の第2堤上面から地表下約1.9mの深さにある。

第3濠西側は、江戸時代の元禄期に埋め立てられ、明治時代に再掘削されたことが知られているが、今回検出された造成土にはその過程が反映されていると考えられる。仁徳天皇陵北西部における第3堤、第3濠、第2堤は築造当初の姿から大きく改変されていると考えられる。

出土遺物としては、円筒埴輪片、陶磁器片、瓦片を多数、須恵器片が少数出土した。

詳細な報告文は後掲する。

2 履中天皇陵（大阪府堺市西区石津ヶ丘）外堤復旧工事予定区域の事前調査

古市監区、3月実施、担当：有馬 伸・濱田武典・森田雅也

当陵周濠北側入水口の東西に延びる石積崩落箇所の復旧工事に先立ち、4箇所のトレンチ（西から東へ第1～4トレンチ）を設定して遺構・遺物の有無を確認した。完掘できた第3トレンチでは、表土、黄色粘土層、地山層を確認した。黄色粘土層については、検出当初外堤本来の盛土である可能性を想定したが、断ち割ったところ、粘土層にバックされる形で瓦片が出土し、後世の盛土層であることが判明した。標高16.2～16.5m以下が地山層と考えられる。

第4トレンチでは、表土層下でφ5～10cm大の礫が敷かれている遺構を確認した。礫だけでなく、瓦片も混在していたので、第3トレンチの盛土と同時期の施工と思われる。調査期間の制約により撮影までしかできず、次の機会を期して、ビニールシートで遺構面を保護して埋め戻した。

今回崩落した石積は、明治12年の『御陵図』において該当箇所が石積の表現になっているが、幕末以降から明治12年の間における外堤工事の記録を見いださせないことから、いわゆる「幕末の修陵」時に普請されたものであると想定される。今回の調査結果は、それと矛盾しないと考えられる。

なお、第2トレンチは石積崩落箇所にあたり、さらなる崩落の危険があったため現況確認にとどめ、第3トレンチは計画される工事範囲からは外れるため、第3・4トレンチの調査に注力することとして、今回

は設定のみで未掘とした。

詳細な報告文は後掲する。

〔立会調査〕 18件

3 桃山陵墓地（京都府京都市伏見区桃山町古城山）水道管漏水修繕工事に伴う立会調査

桃山監区、8月実施、担当：堀井 清

水道管修繕箇所（平面約0.45×0.85m、深さ0.3m）の工事掘削に立ち会った。調査の結果、今回の掘削範囲は旧水道管設置の際の掘方内におさまることが確認された。

4 仲野親王墓（京都府京都市右京区太秦垂箕山町）境界標識埋設工事に伴う立会調査

桃山監区、2月実施、担当：平松大典、田邊雄貴

境界標識（界10号）埋設箇所（平面0.3m×0.3m、深さ0.5m）の掘削に立ち会った。調査の結果、隣接の住宅造成時の攪乱土層であることが確認された。

5 宇治墓（京都府宇治市人菟道丸山）駒形制札改築工事に伴う立会調査

桃山監区、3月実施、担当：小倉卓也、青石直大

駒形制札設置箇所（平面0.4m×0.5m、深さ0.6m）の掘削に立ち会った。調査の結果、掘削箇所は当墓地内の整備にあたっての盛土と考えられる。

6 後二條天皇陵（京都府京都市左京区北白川追分町）外構柵その他整備工事に伴う立会調査

月輪監区、9～12月実施、担当：有馬 伸、松村一成、山室亮介

金網フェンス及びその支柱が老朽化したことによる撤去及び石積の積み直し箇所の掘削に立ち会った。前回工事の埋戻し土と考えられる茶褐色土、黄褐色土、黒褐色土を確認した。遺物は、陵域内にある邦良親王墓北西の表土から埴輪片を採集した。

詳細な報告文は後掲する。

7 後冷泉天皇火葬塚（京都府京都市北区紫野下御輿町）ブロック塀撤去その他工事に伴う立会調査

月輪監区、10月実施、担当：藤山恭平、清水謙太

当火葬塚の外周ブロック塀（長さ14m×幅1m×深さ最大0.9m）の掘削に立ち会った。表土下からは、当火葬塚とかかわるような土層は観察されず、比較的新しい時期の造成土と考えられる。

8 東山本町陵墓参考地（京都府京都市東山区本町16丁目）外構柵改修工事に伴う立会調査

月輪監区、11～2月実施、担当：田中詢弥、田中惇也、児嶋志音

コンクリートブロック塀を格子フェンスに改修する箇所（長さ延べ28m×幅0.8m×深さ0.85m）、浸透枘（平面0.6m×幅0.8m×深さ1.8m）設置箇所の掘削に立ち会った。調査の結果、表土下に近現代の造成土、地山を確認した。

9 一條天皇火葬塚以下二火葬塚（京都府京都市北区衣笠鏡石町）外構柵取設工事に伴う立会調査

月輪監区、11月、2月実施、担当：藤山恭平、清水謙太

外構柵設置箇所（36箇所）および新設門扉設置箇所（2箇所）の掘削に立ち会った。表土下からは、当火葬塚とかかわるような土層は観察されず、比較的新しい時期の造成土と考えられる。

10 宗諱女王墓（京都府京都市左京区南禅寺北ノ坊町）駒形制札改築工事に伴う立会調査

月輪監区、3月実施、担当：山室亮介

駒形制札設置箇所（平面0.3×0.3m、深さ0.6m）の掘削に立ち会った。調査の結果、掘削箇所は当墓地内の整備にあたっての盛土と考えられる。

11 磐園陵墓参考地（奈良県大和高田市大字築山）樋管改修その他工事に伴う立会調査

畝傍監区、令和5年10月～6月実施、担当：土屋隆史、松岡隆行、角野陽香、堤 聖貴

令和5年度から令和6年度にかけて実施された工事に立ち会った。令和5年度分は、工事の仮設道路設置のための地盤改良に伴うもので、現代遺物を含む濠内堆積土と地山を確認した。令和6年度分は、樋管

改修その他工事に伴う掘削に立ち会った。現代遺物を含む濠内堆積土とそれ以前の濠内堆積土と地山と考えられる土層を確認した。

詳細な報告文は後掲する。

12 宣化天皇陵（奈良県橿原市鳥屋町）排水整備に伴う立会調査

畝傍監区、9月実施、担当：畝傍部職員

外堤の排水整備工事箇所（長さ約4m×幅約0.6m×深さ約0.6m）の掘削に立ち会った。表土と外堤を現況に整えるための盛土を確認した。

13 神武天皇陵（奈良県橿原市大久保町）御休所建仁寺垣改修工事に伴う立会調査

畝傍監区、1月実施、担当：横田真吾、徳永真明、伊佐大歩

建仁寺垣改修箇所（平面約0.5×0.6m、深さ0.5mを17か所）の掘削に立ち会った。土層は上から順に近現代盛土、河川堆積土、地山が確認された。

詳細な報告文は後掲する。

14 陵西陵墓参考地飛地ろ号ほか（奈良県大和高田市大字池田）外構柵改修工事に伴う立会調査

畝傍監区、1～3月実施、担当：田中詢弥、角野陽香、堤 聖貴

当参考地飛地ろ号及び飛地に号において、外構柵を改修する箇所、出入口門扉を設置する箇所、土留箇所の掘削に立ち会った。ろ号掘削箇所では、表土下に周辺工事の埋戻し土、墳丘からの流土、周辺耕作地からの客土が混じる堆積土、地山をを確認した。に号も同様の土層が確認された。

詳細な報告文は後掲する。

15 神武天皇陵（奈良県橿原市大久保町）外構柵整備工事に伴う立会調査

畝傍監区、2～3月実施、担当：足達悠紀、徳永真明、上原孝浩、玉野裕弥、伊佐大歩

当陵の外構柵基礎埋設箇所（281箇所）と門扉の基礎埋設箇所（8箇所）の掘削に立ち会った。調査範囲の北寄りでは、表土下に、地山由来の盛土が確認された。南寄りでは、表土下に近世以降と考えられる盛土が確認されたほか、性格は不明瞭ながら滞水の影響を受けていると考えられる土層が確認されている。遺物としては、古墳時代の土師器高杯片、陶磁器片、瓦片が出土している。

詳細な報告文は次号以降に掲載する。

16 川上陵墓参考地（奈良県吉野郡川上村大字高原）駒形制札改築工事に伴う立会調査

畝傍監区、3月実施、担当：中野裕樹、南彰治

当参考地の駒形制札改築工事箇所（長さ約0.5m×幅約0.5m×深さ約0.6m）の掘削に立ち会った。調査の結果、表土下に流土、その下に地山を確認した。

17 三吉陵墓参考地（奈良県北葛城郡大字三吉）駒形制札改築工事に伴う立会調査

畝傍監区、3月実施、担当：角野陽香、堤 聖貴

当参考地の駒形制札改築工事箇所（長さ約0.7m×幅約0.6m×深さ約0.6m）の掘削に立ち会った。調査の結果、表土下に流土2層、その下に地山由来かと思われる盛土を確認した。

18 陵西陵墓参考地（奈良県大和高田市大字池田）駒形制札改築工事に伴う立会調査

畝傍監区、3月実施、担当：角野陽香、堤 聖貴

当参考地の駒形制札改築工事箇所（長さ0.65m×幅約0.6m×深さ約0.6m）の掘削に立ち会った。調査の結果、表土下に流土2層、その下に盛土を確認した。

19 允恭天皇陵飛地い号（大阪府藤井寺市林六丁目）外構柵改修工事に伴う立会調査

古市監区、1月実施、担当：横田真吾、芳村勇一、森田雅也

当飛地での上記工事範囲の掘削に立ち会った。現代の盛土と2次堆積と考えられる遺物包含層を確認した。

詳細な報告文は後掲する。

20 応神天皇陵（大阪府羽曳野市誉田6丁目）外構柵設置その他工事に伴う立会調査

古市監区、1月実施、担当：足達悠紀、須藤周太、荒木崇行

当陵本地（域内陪冢丸山）と飛地ろ号の境界線での外構柵設置にかかる基礎ブロック埋設箇所の掘削に立ち会った。調査の結果、本地では表土下に既存建築物に伴う造成土、墳丘側からの2次堆積土と考えられる土層を確認し、最終的に地山を検出した。2次堆積と考えられる土層からは埴輪片が出土した。飛地ろ号では、表土下に近年の周辺工事に伴い境界外から流入した埴輪片を含む造成土があり、その下からそれ以前の表土、2次堆積土と考えられる土層が確認された。

詳細な報告文は後掲する。

〔墳丘外形調査〕 1件

21 安曇陵墓参考地（滋賀県高島市安曇川町）墳丘外形調査

月輪監区、3月実施、担当：横田真吾、田中詢弥、足達悠紀、月輪陵墓監区事務所

当参考地の考証に資するために、墳丘外形の現状を精査するとともに、精細な測量図を作成した。令和6年度は第1回調査となる。本地の約半分と飛地の一部を測量した。第2回調査は、今回の実測用紙に入る範囲の残り半分の測量を予定しており、第3回調査は、飛地を測量する予定である。

方法としては、世界測地系に準拠して基準点測量されている界標を基準とし、トータルステーションを用いてスケール1/100、等高線間隔25cmの平面測量図を作成する。

全体の測量が終了した後、詳細な報告をおこなう予定である。

（清喜裕二）